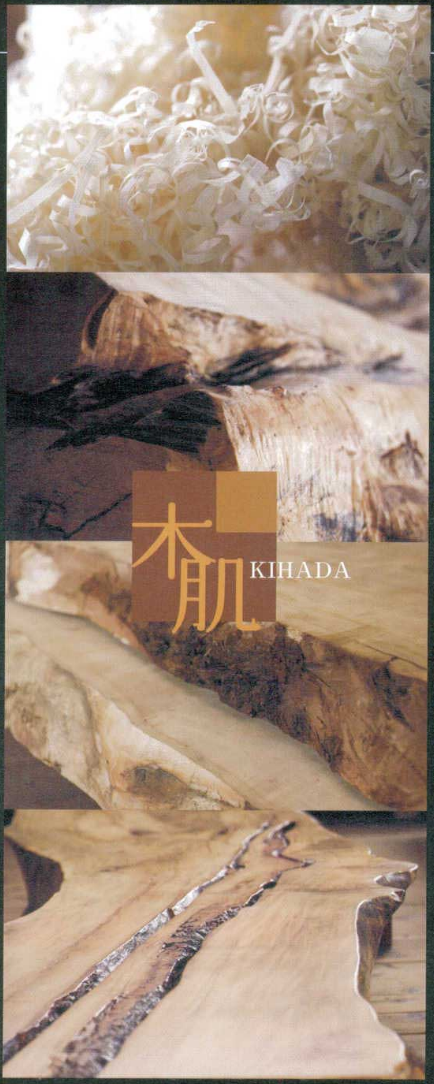
Catalogue No.
20153-17

本物の心

道具に、木材に、職人の魂が宿る。



「用美」のおひつに使われているのは、古くから木曽五木のひとつとして知られる、良質な木材、「木曽椹（きそさわら）」です。木材としては比較的軽く、水分をよく吸い取り、酸にも強いため、桶製品に最も使われています。黄みがかかった木肌、やさしい香りは、料理の邪魔をせず、調理道具のほか器にも重宝されています。

ありとあらゆるサイズの鉋（かんな）、鉈（なた）、鎌（かま）といった道具類で埋めつくされている、職人の仕事場。それもそのはず、木工は製作工程が多く、先に進むごとに道具を持ち替えるのです。

まさに、道具の使い分けの工程と言えるのです。その手に馴染むまでに使い込まれ、手入れの行き届いた道具からは、職人のものづくりへの姿勢や、これまでの鍛錬が見て取れます。精度の高い、繊細な仕事を可能にする道具たち、そして天然木の木肌には、職人の本物の心が宿っています。